

CiNii Articles を使う

© 芳野明 2019 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学西洋美術史・博物館学研究室

I. アクセスする

■<https://ci.nii.ac.jp/>

II. 簡易検索画面

■アクセスすると最初に出る画面です (fig. 1)。「フリーワード」とあるところにキーワードを入力して「検索」ボタンをクリックします。

01. ボックス下部の項目の意味

■すべて

すべての論文が対象

■本文あり

CiNii から直接あるいは発行機関の Web サイトから、PDF ファイル形式で閲覧できる論文が対象

■詳細検索

検索項目をより詳細に設定できるページヘジャンプします

III. 詳細検索画面

論文タイトル、著者名など検索条件を細かく設定できます (fig. 2, 3)。

IV. 検索結果画面

フリーワードに「マルセル・デュシャン」と入力して検索した結果です。リストの上部にヒット件数が示されています (fig. 4)。

V. 「本文あり」の検索結果画面

「本文あり」を選んだ検索結果の画面です (fig. 5)。「機関リポジトリ」のボタンが表示されています。ほかに「J-STAGE」や「CiNii 外部リンク」などのボタンが表示されるものもあります。

VI. 「機関リポジトリ」の画面

上から三つ目の「レディ・メイドとしての墓標の仮説」の「機関リポジトリ」のボタンをクリックすると表示される画面です (fig. 6)。「JinbunRonshu_56_5.pdf」へのリンクがあるので、これをクリックすると論文の PDF ファイルをダウンロードすることができます。

VII. 文献表の作成

多くの文献が出てきましたから、文献表を作ってみましょう。並べ替えたり抽出したりできるように、CiNii のデータを Excel で使えるようにします。

01. 結果の件数の下にチェックボックスとリストボックス「実行」ボタンがあるので、「すべて選択」をチェックします。
02. リストボックスから「TSV で表示」を選びます (fig. 7)。
03. 「実行」ボタンをクリックします。
04. 各項目が TAB で区切られたデータが表示されます (fig. 8)。
05. 全選択 (Ctrl + A、⌘ + A) してからコピー (Ctrl + C、⌘ + C) します。
06. メモ帳か TextEdit を起動します (fig. 9)。
07. コピーしたデータをペースト (Ctrl + V、⌘ + V) します。
08. 名前を付けて保存を選択します (fig. 10)。このときウィンドウ下部にある文字コードを「Unicode」あるいは「UTF-8」にします (fig. 11)。
09. Excel を起動し、「開く」→「参照」と選択し、さきほどファイルを保存したフォルダを選びます。
10. 下部のファイル名入力ボックス右側のリストボックスから「テキストファイル」を選びます (fig. 12)。

11. 保存したファイル名をクリックして「開く」ボタンをクリックします。
12. 「テキストファイルウィザード 1/3」ウィンドウが開きます (fig. 13)。
13. 「データのファイル形式」は「カンマやタブなどの区切り文字によってフィールドごとに区切られたデータ」にします。
14. 取り込み開始行を「1」にし、その右側のリストボックスからは「Unicode」で保存した場合は「Unicode(UTF-7)」を「UTF-8」で保存した場合は「Unicode(UTF-8)」を選択します。
15. 「先頭行をデータの見出しとして使用する」をチェックし、「次へ」ボタンをクリックします。
16. 「テキストファイルウィザード 2/3」ウィンドウが開きます (fig. 14)。
17. 「区切り文字」は「タブ」をチェックし、「次へ」ボタンをクリックします。
18. 「テキストファイルウィザード 3/3」ウィンドウが開きます (fig. 15)。
19. 「列のデータ形式」は「G/標準」をチェックし、「完了」ボタンをクリックします。
20. 先ほどのファイルが Excel の表として開きました (fig. 16)。このままでは「出版日付」の列の表示が適切ではありませんので書式を変更します。
21. 出版日付の 2 行目から最後までを選択します。
22. 選択した部分の中で右クリックし、「セルの書式設定」を選択します。
23. 「表示形式」タブを選択し、左側の「分類」リストから「日付」を選択します。
24. 「〇〇〇〇年〇月」の形式を選択し、「OK」ボタンをクリックします。
25. 文献表が完成しました (fig. 17)。



fig. 1



fig. 2



fig. 3

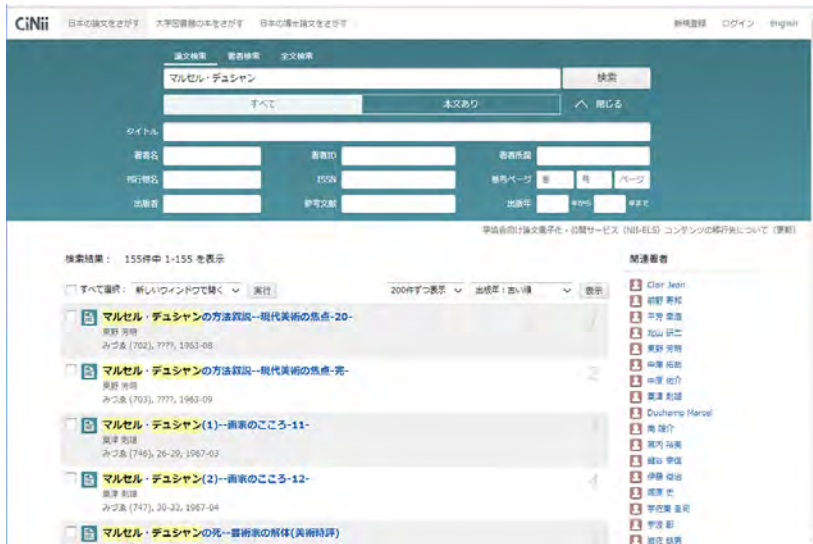


fig. 4



fig. 5



fig. 6

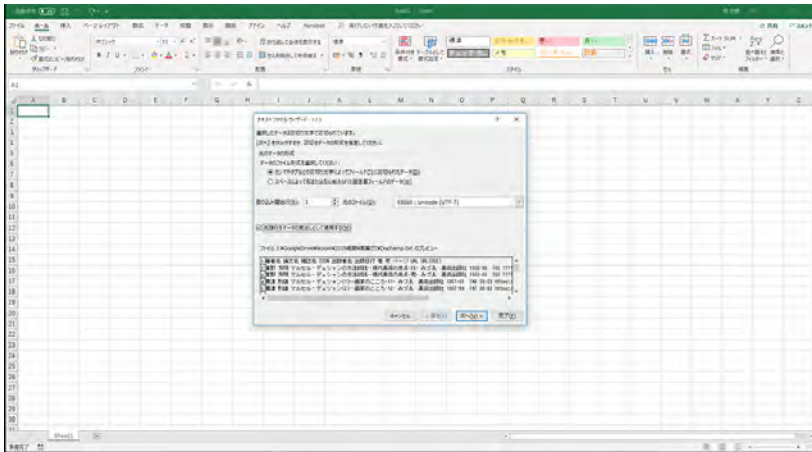


fig. 13

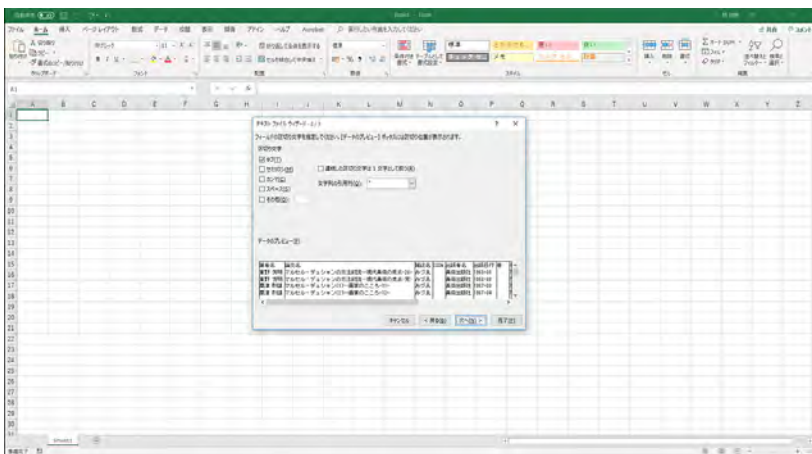


fig. 14

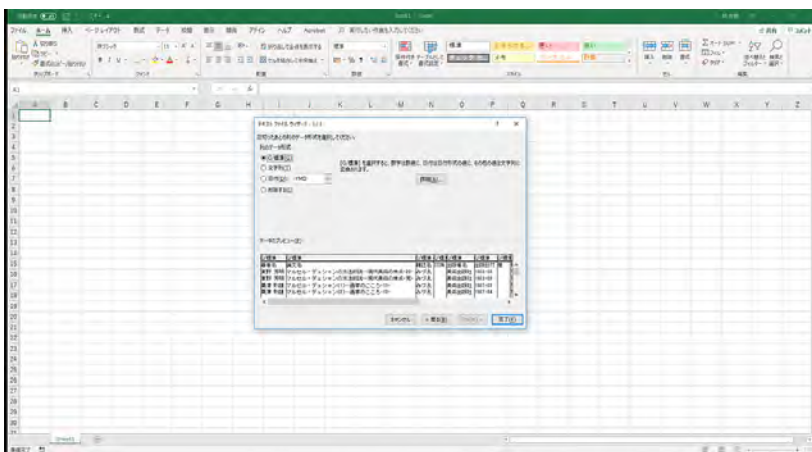


fig. 15

